

日刊 不動産経済通信

2017年（平成29年）12月18日

◎REB1000社の会、大望年会を開催

REB1000社の会（理事長 清水修司・SD建築企画研究所社長）は14日、代々木SYDホールで「第51回セミナー&大望年会」を開催した。第1部は日本土地建物の前会長の中島久彰氏が「日本の不動産は黄金のジパングか？」をテーマに講演。中島氏は日本の不動産投資市場は「今後しばらく好調が続くまさに黄金の国ジパング状態にある」として、投資家にとってイールドギャップが十分狙える点、良質なオフィスビルの供給継続を理由に挙げた。第2部はリブセンスの不動産ユニットリーダー・芳賀一生氏が「急成長する不動産テックの最新動向と未来」について講演した。あらゆる情報を入力してから不動産を購入する現代は「不動産はモノを買うのではなく情報を買う時代になった」と指摘。外資の不動産関連サービスで黒船のような存在が現れた時に国内勢は立ち向かえるのかといった懸念も伝えた。自社のテクノロジーで「国内企業の総合力でグローバルに負けない不動産業界に進化させたい」と語った。当日は210人が参加した。